

熊本YMCA本館、ついにオープン



YMCA学院 専門学校

こども保育科 ホテル観光科 医療秘書科 建築科
健康スポーツ科 グローバルコミュニケーション科
社会福祉学科通信制 精神保健福祉学科通信制

YMCA学院 日本語学校

放課後等デイサービス

ランゲージスクール

会員サービス YMCAフィランソロピー協会

本部事務局 など

〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
(市電段山電停横)

2021年5月、熊本YMCA本館が段山本町に開館しました。

2016年に発生した熊本地震は、改めて安全を担保する責任を考える機会となりました。本館は、建物の構造を強化。井戸、マンホールトイレ、かまどスツール、防災収納ベンチ、太陽光パネル、自家発電設備を備え、一次的な避難場所としての活用も想定しています。安全、安心な環境のもと、会員の皆さん、地域の皆さんと共に社会課題に取り組み、地域に愛されるYMCAを目指して新たな歩みを進めていきます。

グローバルな人材の育成

各専門領域のプロフェッショナルの育成を目指す専門学校、7カ国からの留学生が在籍する日本語学校、多彩な語学プログラムを展開するランゲージスクールの連携を促進します。留学生と外国人講師の国籍をあわせると、約20カ国にもなる多国籍な教育環境。さらに、部門を越えた特別プログラムを実施するなど、より活発に交流できる場を提供し、グローバルな人材の育成を図ります。



子育て世代、シニア層を支援

キャンプ、こどもヒップホップのほか、一人ひとりのニーズに合わせた療育を行い、障がいのある子どもたちに自分自身が認められる居場所を提供する放課後等デイサービスなどのプログラムを通し、すべての子どもたちが笑顔で活動できる場となることを目指します。また、ヨガ教室やシニア世代のためのマッスル体操などを実施。様々な世代に向けたプログラムを提供します。



井戸・防災収納ベンチ



マンホールトイレ



太陽光パネル

その他の写真は
こちら▶



Pickup

ドキドキの入園式
熊本五福幼稚園に
21名が入園



145名が入学
YMCA学院
入学式

かわいいお花
もらったよ
永草入園式



困難な中でも希望の光を 熊本YMCA献堂式を開催

4月17日(土)、熊本YMCA本館の開館に先がけ、献堂式を執り行いました。第一部の記念礼拝では、カトリック宇部教会の片柳弘史さんが「平和の福音」と題して、オンラインで奨励。第二部開館記念式典では、会長の吉本貞一郎さんが「本館で多くの青少年が学び、熊本の地、そして世界で活躍する人材が育つことを願っています」と式辞を述べ、総主事の神保さんより、本館の建設に関わった企業の皆さんに感謝状が贈呈されました。日本YMCA同盟総主事の田口努さんから、「新しい会館が会員の思いを一つにし、多くの人を招き入れる希望の光としてますます歩まれることを祈っています」とオンラインでお祝いが届けられた後、神保さんが謝辞を述べて閉式しました。施設見学ツアーも実施し、参加者たちからは新たな会館への様々な期待の声が聞かれました。

第一部の奨励の内容は、Webサイトでご紹介しています▶



新たなネットワークづくり 熊本災害支援フォーラムを開催



4月17日(土)、献堂式に続き「熊本災害支援フォーラム」を開催しました。熊本YMCAをはじめ、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)などによる実行委員会が主催し、YMCAの本館をメイン会場にオンライン参加を含めて約120名が被災者支援のあり方を考えました。

YMCA職員の丸目陽子さんが、熊本地震や昨年の7月豪雨での避難所運営について振り返ったオープニングトークに始まり、KVOAD代表理事の樋口務さんによるリードのもと、熊本地震・7月豪雨災

害リレートークとして、災害支援に関わる6名の登壇者がそれぞれの活動について報告。参加者のグループセッションも行われ、「災害支援は仮設を出たら終わりということではないと知った。被災者が一人にならないための活動を考えたい」などの感想が聞かれました。

フォーラムの総括として副知事の木村敬さんが「平時の地域活動が災害時の対応力につながります。市町村が住民と協働することができる災害に強い地域づくりを進めていきます」と話しました。

リレートーク



一般社団法人 minori
高木 聡史さん

熊本地震後にみなし仮設住宅に身を寄せた被災者支援を始めました。みなし仮設は点在していて支援が届きにくく、孤立しやすい。近くに困っている人がいたら直接支えるだけでなく、専門機関を頼ることも考えてください。



御船町社会福祉協議会
中島 直子さん

御船町では3月に地域支えあいセンターを閉所しました。仮設団地ではリーダーシップのある人ほど早く退去されるケースがあり、コミュニティが変化していきます。自立の方向へ住民の方の力を引き出していくことが大切です。



生活協同組合くまもと
迫 和久さん

自然災害は他人事ではありません。過去の被災地から教訓を得ることが大切です。支援団体は行政と災害時の支援に関する協定を結ぶなどして、組織の担当者が代わっても続いて活動できる体制づくりも重要でしょう。



益城町東無田復興委員会
田崎 眞一さん

東無田地区では様々な行事を受け継いで来たからこそ、住民同士が団結し、共助ができました。若い時から地域に目を向ける視点を持つことができるよう、今の時代に合わせた取り組みを進めていきたいものです。



復興プロジェクト大津「カセスル熊本」
吉田 知司さん

仮設団地での催しは常連ばかりになりがち。男性に出てきてもらうためにちよい飲み居酒屋を開いたりもしました。私たちはもともと街づくりのグループ。支援活動での経験を地域福祉に還元したいと思っています。



球磨村こうのせ再生委員会
岩崎 哲秀さん

昨年7月の豪雨災害後、毎週委員会を開催しています。活動の柱は①復旧作業、②生活再建、③地域コミュニティの再生。住民皆で力を合わせて地域の福祉に取り組み、共に生活ができるように働きを行っています。

Compassion

コンパッション Vol.2

総主事 神保 勝己

共に生きる社会へ

アフガニスタンの支援に尽力され、2年前に銃弾に倒れたペシャワール会の中村哲さん。同時多発テロ9.11後のアフガン空爆の際には「無差別空爆は絶対にやめてください。人々の命を守るために、砂漠を緑に変え、人々の暮らしを取り戻すことが急務です」とコメントを発信されました。その言葉に心打たれた加藤登紀子さんは2001年よりペシャワール会の活動

を支援されています。

先日、中村哲さんの在りし日を偲び加藤登紀子さんによるチャリティコンサートが開催されました。「アフガニスタンは、数十年前までは自給自足が可能な国でした」、「私たちにとっての「国際協力」とは、決して一方的に何かをしてあげるのではなく、人々と「共に生きる」ことであり、それを通して人間と自らを問うものがあります」等の中村さんの言葉が紹介されました。私たちは、アフガニスタンという国をどれだけ理解していたのでしょうか。自給自足ができる国であったにも関わらず、地球温暖化や干ばつ、紛争の発生や大変な偏見と差別により国民は非常に厳しい生活を余儀なくされていま

す。

このように、世界中で大きな格差が生まれています。誰もが「違い」を認め合い、多様な生き方を自らの意思で選択していくことのできる社会の実現のために、私たちはどうあるべきなのでしょう。主なる神は言われます。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」(創世記2章18節)。私は、海外研修や国際交流に青少年を派遣する際に、「違いを楽しんでください。現地の習慣や文化に畏敬の念を持ってください」と伝えます。相手を尊敬し、理解しようとする姿勢なしには、共に生きる社会は実現できません。一人ひとりが平和を創り出す人として歩んでいきたいものです。

R | E | P | O | R | T

[3月13日⇒ 4月8日]

自然

阿蘇市で初めて 保育園にツリーハウスが完成

尾ヶ石保育園に大きな杉の木を支柱にした2階建てのツリーハウスが完成しました。熊本地震以降、防災・減災対策として、保育園周辺の森を整備し、間伐や道の整備を行ってきました。このツリーハウスは、森のこみちの入り口に建ち、保育園周辺全体や土砂災害警戒区域となっている保育園西側の谷も見ることができます。

ツリーハウスは、鳥の巣をモチーフにしており、昨年完成した花壇と合わせ、聖書の「野の花」「空の鳥」を形にしたものです。大分県日田市で活動するデザイナーの上玉利佳哉さんが設計し、阿蘇ワイズメンズクラブの梅井俊夫さんが施工しました。

3月13日(土)には完成を記念し、日本野鳥の会の長谷部和宏さん、植樹指導者として合原万貴さんを招いて年長児8名とその保護者でワークショップを開催しました。はじめに野鳥に関する話を聞き、親子で巣箱を製作。最後に卒園記念の植樹(桃、栗、モミジ等)を行いました。

参加した山部なおちゃんは、「自分が作った巣箱で鳥が子育てしてくれるか、また見にきたい」と笑顔で話し、4月には小学校入学式後に、他の卒園児や保護者と新しいランドセルを背負って遊びに来てくださいました。

職員 久保誠治



IoT

デジタル改革で社会課題を解決 包括連携協定を締結

競争の時代が終わり、共創の時代に入った現代。熊本YMCA、崇城大学IoT・AIセンター、一般社団法人SCBラボでは、①デジタル変革(DX)②地域の課題解決③イノベーション(新しい価値の創造や新たな技術革新)を起こすために、包括連携協定を結びました。

崇城大学は、新たに設立したIoT・AIセンターで最先端技術を駆使し、学生や企業人に学びの場を提供しています。SCBラボは、地域活性化やコミュニティ活動を幅広く展開。行政・団体・企業の繋がり強化にも力を入れています。そしてYMCAでは、社

会貢献・人材育成・国際協力活動・SDGsなどに取り組んできました。産官学で協働することにより、学生・企業人・市民に新たな体験の場を提供することが出来ます。そこから新しい価値が創造されて熊本のさらなる復興につながることが期待されています。これまでになかった人材育成や学びの場、そしてビジネスモデルの構築、社会活動などを推進し、実践型のチームワークで新しい風を吹かせます。それぞれの賜物を生かしながら、仲間と手を取りあって社会に貢献していきたいと思っています。

職員 中村賢次郎



新社会人

相手の立場で考える ボランティア入門講座

4月8日(木)、YMCAフィランソロピー協会主催の第26回新入社員ボランティア入門講座を開催しました。YMCA中央センターを会場とし、5企業・団体21名の参加がありました。

参加者は、重りの入ったベストや自由に腕や足の関節を曲げ伸ばしできないサポーターを着けて食事をする事で、高齢者の大変さを疑似体験。お箸を持つことすらままならず、食事を楽しむことはできなかったようです。また、車いすで街中を移動しました。普段は気にならない段差も、車いすでは乗り越えることが困難で、ヒヤリとする瞬間が何度か

見られました。

参加者からは、「今まで高齢者や体が不自由な方の気持ちを察して気をつけてきたつもりでしたが、しっかりと理解できていなかったのだと分かった」「介助される側、介助する側の気持ちが分かり、とても貴重な体験になった」「本当の意味で相手の立場で物事を考えることの必要性を学んだ」などの感想が寄せられました。2つの体験を通して、改めて相手の立場に立って物事を考えることを学ぶ機会となりました。

職員 守田愛沙



野外

子どもたちが初めてののお泊り スプリングキャンプ

今年の春、YMCAでは、6つのキャンプを行いました。依然として新型コロナウイルスの影響が残る状況ではありますが、感染対策を十分に行い、のべ94名の子どもたちが春を満喫しました。

年少から年長までの幼児を対象とした1泊2日の「春のはじめてキャンプ」の参加者は、家族の元を離れて、新しいお友だちとお泊りするのが初めてという子どもがほとんど。初めて出会ったお友だちやリーダーと一緒に楽しんでもらうことを大切にしました。YMCAのキャンプで大切にしているものの一つに「生活すること」があります。家庭を離れ、日常

を離れる中でも、生活することがその基本となります。駅からキャンプ場までの道のりやキャンプ場での春を探しながらの探検、夜はキャンプファイヤー等、キャンププログラムを楽しみましたが、新しくできた友だちやリーダーと遊んだり、食事をしたり、一緒にお風呂に入ったりというキャンプ場での「生活」も大切な思い出になったと思います。2日間をいっぱい楽しんだ子どもたち。これからもYMCAキャンプに参加してワクワクするようなプログラムに挑戦してほしいと思っています。

職員 福山裕敏



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

5月28日 Friday

2021年度会員大会のご案内

2021年度熊本YMCA会員大会は昨年に続き、オンラインで開催します。参加方法等の詳細のご案内は会員の皆様に別途お知らせします。

回 5月28日(金)18:30～ 因 第1部礼拝、第2部特別報告会、第3部表彰式、第4部定期総会 園 YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397

会員
×
大会

テラスで、貸切バーベキュー！

阿蘇
×
楽しむ

食材やお皿の準備、火おこしはすべておまかせ！
YMCA阿蘇キャンプの本館テラスで、阿蘇の自然豊かな景色を眺めながらバーベキューを楽しみませんか？ご家族のみの貸切利用が可能です。おうち時間が長くなる昨今。YMCA阿蘇キャンプでは、子どもは思いっきり自然で遊び、大人は緑に囲まれてのんびり過ごせます。日帰り、宿泊、ドラム缶風呂体験、自然クラフト、ウォークラリー、キャンプファイヤー、特別料理など、様々なご要望にお応えします。皆様のご利用をお待ちしています。

場 YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰358)

バーベキュー費用 食材込の場合：2,240円／1名

※食材の持ち込みも可能です。

団要予約 ※2週間前までにお申込みください。

Tel 0967-35-0124 email asocamp@kumamoto-ymca.org

園 YMCA阿蘇キャンプ詳細は、Webサイトをご覧ください。



大学生・専門学校生が活躍 YMCAユースリーダー募集

出会い
×
学び

YMCAには、子どもと関わる活動、スポーツ、キャンプ、健康づくりのサポートをするボランティア活動の機会がたくさんあります。新しい経験や出会いを通して自分自身の成長を目指してみませんか？

こどもスポーツプログラム(水泳・体操・サッカー)

教員を目指す人、子どもが好きな人など、未経験者でも指導研修があります。

園 幼児・小学生対象のスポーツスクールの指導補助

場 みなみ・ながみねファミリー・むさしセンター 回 平日・土曜日の3～5時間程度

野外活動・キャンプ

子どもたちと共に、野外活動を通して自然の豊かさを知り、仲間や新しい自分との出会いの中で生きる力を育みます。子どもたちに寄り添い、成長を一番近くで見守ります。

園 野外活動クラブ(キッズ・ジュニア)／月1回の活動(週末)・シーズンキャンプ／長期休み期間の様々なテーマのキャンプ



成人ウェルネス

フィットネス施設でのトレーニングサポートなどを行います。

場 みなみ・ながみねファミリーセンター

回 平日9:00～23:00の3～5時間程度 土・日曜日も歓迎

登録はこちら



回日時 園会場 因内容 園参加費 因定員 園参加条件 園持ち物 因対象 園主催 園締切 園申込 園問合せ 園その他

わたしと聖句
来たる5月23日は、教会ではペンテコステ(聖霊降臨)の記念の礼拝を持ちますが、今私は4月14、16日の熊本地震5年目を迎えたことを思いつつ書いています。震源地の益城に住むものとしては、まだ復興の真ただ中にいるように思います。幹線道路も少しずつ広げられ、新しい住まいも見えます。しかしまだ仮設に住まわれている方々もおられます。

聖霊が臨むとき
地震を通して今私に言えることは、この使徒言行録1章8節の言葉の通り、聖霊が私たちのうちに臨む時、私たちはこの地の全土に愛と宣教の重荷が与えられるのだな、ということ。5年前、私たちには地震という自然の脅威が臨みました。しかし今、私たちは聖霊がこの地に、また私たちのうちに臨まれていることを感ぜずにはおられません。聖霊の力を信じてこの地の全土に(私にとり愛する上益城に)出ていくときに、さらに聖霊の力と愛を感じています。

使徒言行録1章8節
あなたにわたしの前に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、私の証人となる。

わたしと聖句
木山キリスト教会
小田真由美

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／神保 勝己 編集人／辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2021年度基本聖句

コリントの信徒への手紙二 4章18節

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。